

平成23年度 森プロ事業実績：朝霧の森プロジェクト

(平成24年3月末現在)

		H21～22年度		H23年度			5カ年	
		計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		230	274	216	27.89	13%	完了	584
作業道(m)		3,975	3,822	3,000	0	0%		11,000
間伐	面積(ha)	230	154	150	38.76	26%	利用+切捨	513
	材積(m ³)	4,678	4,055	3000	1,342	45%		14,540
備考		団地外実績(利用間伐面積:122ha(うち国有林約59ha)、皆伐面積:9.0ha、搬出材積:19,211m ³ (うち国有林4,049m ³ 、うち管外785m ³)、作業路開設:7,668m(うち中津川市857m))						

H23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

4,450 円/m³

施業集約化の状況

- ・ 23年度集約化計画区域の笹ヶ洞・寺地地区については、施業予定区域の実施が完了。
- ・ 今年度も引き続き隣接する信包地区への施業集約化へ取り組んでいる。

施業プランの活用状況

- ・ 選定した利用間伐区域ごとに作成し、実施・様式等は更に検討中。

施業プランナーの養成状況

- ・ 国研修を1名が受講し、プランナー認定を受けた。



作業路の状況

- ・ 全体計画では幅員3.6mのトラック運搬用の幹線と、それに接続する支線は車輛系システムでの搬出路を計画している。
- ・ ひだ森林整備協同組合(飛騨市の林建協働組織)が河合町新名にて市発注の森林整備を行うにあたって、森林組合の作業路担当者が線形測量及び開設指導を行った。
- ・ これまでに森プロ団地内で開設した路線については、破損箇所は見られない。

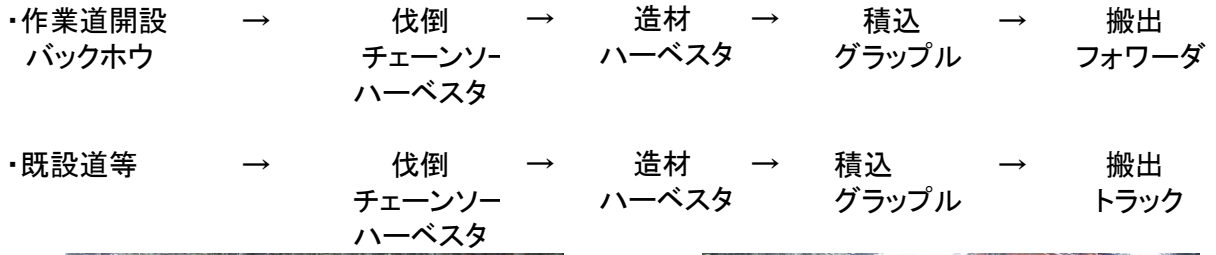


森林組合による作業路指導



H21に開設した作業路

作業システムの状況



その他

- ・ 恵那地区の森林組合等林業関係者の視察対応を行った。
- ・ 飛騨市森林推進員の現地視察研修の視察対応を行った。
- ・ 日本型フォレスター活動・支援事業の民間事業者研修の受け入れを行った。



森プロの成果

- ・ 路網整備と高性能林業機械を導入した素材生産の低コスト化により、実際に利益還元することで、森林所有者が山に関心を持っていただけるようになった。
- ・ 森プロを通じ、今後他地域でも計画される集約化施業への理解が一層深まった。
- ・ 団地内の地域毎に利用間伐モデル林を設置し路網整備と高性能林業機械による伐出の展示に努めた。
- ・ 各種研修会の開催によって間伐の必要性が一般の方にも理解されるようになった。
- ・ 組合独自の中間土場を設置してシステム販売を行うことで、価格の安定と輸送コストの削減に繋がり、森林所有者に利益還元を図ることができた。
- ・ 中津川市福岡町において、H22年度に引き続き利用間伐の委託を受け、森プロ団地内での作業道開設の経験を活かし、路網配置を工夫することにより、haあたりの搬出材積を伸ばすことが可能となり、所有者への利益還元を図ることができた。
- ・ H22年度森プロ団地内で開設した全3路線をひだ森林整備協議会へ委託発注を行い、飛騨市における林建協働体制の構築に向けた実践的な取り組みを行うことができた。
- ・ 加茂郡七宗町においても初めて利用間伐の委託を受け、返却額及び施業後の出来映えについて高い評価を受けたため、H24年度以降も事業発注してもらえることになった。
- ・ H23年度にひだ森林整備協同組合が飛騨市発注の森林整備を行った河合町新名にて線形測量及び作業道開設から森林整備に至るまでの一括指導を行い、飛騨市における林建協働体制の構築に向けたより実践的な取り組みを推進することができた。



今後の課題

- ・ 森林資源調査方法と作業路の開設について、プロジェクトのスタッフ全員が共通認識を持って取り組むこと。
- ・ 降雪期までに現場が完了できるよう現実的な事業計画と進捗管理を行うこと。
- ・ 実践的な施業プランを作成し、運用していくことが必要。
- ・ 作業路開設のオペレータをさらに養成し、路網整備を先行させること。
- ・ 飛騨高山森林組合の新宮工場のA材受け入れ停止に伴い、新たなA材の安定供給先の確保。
- ・ 素材生産量の増加に向けた新設林産班の支援体制。